



今号の内容「令和7年度 主な研究成果」

- 3Sシステムによるカラーピーマン生産の試み
- シクラメン新品種「ムーンキャンディ」の特性と留意点
- 夏秋トマトでの有機農業推進に向けた有機肥料の検討

3Sシステムによるカラーピーマン生産の試み

【支所／西幸 利江菜、大西 竣介】

中山間地域での野菜経営を中心とした新規就農希望者の夏秋トマト以外の新たな品目として、国内需要の増加に対し国内生産量が少ないカラーピーマンを選定し、導入上の課題となる土壌病害を回避と生産安定を目的に3Sシステムによる安定多収な栽培管理技術の開発を目指しました。

【成果の内容・特徴】

- 1 夏秋トマト3Sシステム栽培と同様の装備でカラーピーマンの夏秋栽培が可能です。
- 2 株間30cm、畝間1.7m程度、1667株/10aの栽植密度で、1株4本仕立てとすると、土耕栽培よりも多い7,500kg/10a以上の可販収量を得られました(表1)。
※土耕栽培:L3シグナル(赤)4.5t/10a、同(黄)5.6t/10a(R4年度)。
- 3 遮光率30%の遮光資材を用いると日焼け果の発生を抑制できます(データ略)。
- 4 農業用ハウスの建設費を除いた栽培装置の導入にかかる経費(令和7年度時点)は、2,125千円/10a、単年度経費は耐用年数7年として304千円/10a程度必要です。
- 5 栽培に係る肥料や培養土等の資材費(令和7年度時点)は、1,474千円/10a程度必要です。

表1 収量および品質(令和5年度)

供試品種	収穫果数 (果/株)	平均果重 (g)	粗収量 (kg/10a)	可販収量 (kg/10a)	格外品率 (%)
L3シグナル (赤)	87.2	72.6	9,678	8,174	22.5
L3シグナル (黄)	78.0	70.7	8,525	7,799	15.2



図1 3Sシステムによるカラーピーマン「L3シグナル」の栽培状況

【成果の活用・留意点】

- 1 本試験は中山間農業研究所中津川支所(中津川市福岡、標高440m)で栽植密度1,667株/10a、小型品種「L3シグナル」(園芸植物育種研究所)を供試した結果です。
- 2 出荷形態、量目等は出荷先との調整が必要です。
- 3 気温35℃以上では花粉の稔性が弱まり着果不良が生じる可能性があります。
- 4 トマトに比べて整枝作業に時間を要します。
- 5 現時点で試算した経費を考慮すると、収益を得るための目標可販収量は、10aあたり7t以上必要です(支所での実績単価 750円/kgの場合)。
- 6 中山間農業研究所ではカラーピーマンの栽培マニュアルを作成しています。興味がある方はご連絡ください。

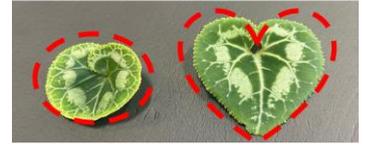
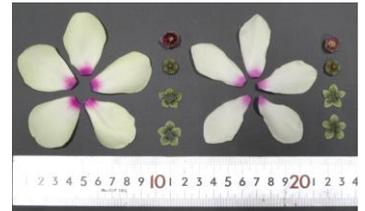
シクラメン新品種「ムーンキャンディ」の特性と留意点

【支所／工藤 溪汰】

かつて本研究所で育成したシクラメン品種「ムーンルージュ」から、より花色の発色が良好な黄色系シクラメン「ムーンキャンディ」を育成しました(出願公表令和4年3月30日出願番号第35903号)。

【成果の内容・特徴】

- 1 「ムーンルージュ」より花色が濃いです。
- 2 「ムーンルージュ」に比べて葉の形状が円形で、花弁の幅が広く、丸みを帯びています。
- 3 「ムーンルージュ」よりも製品化率が高いです。



【成果の活用・留意点】

- 1 大輪系品種で5～6号鉢サイズでの生産に向きます。
- 2 晩生品種であるため、播種から5輪開花までに340～360日必要です。
- 3 中津川支所で得られた結果であり、標高がより低い地域での生産では試作により特性の把握が必要です。

図2 ムーンキャンディ (5号鉢)

上:花弁 下:葉
左:ムーンキャンディ
右:ムーンルージュ

夏秋トマトでの有機農業推進に向けた有機肥料の検討

【本所担当／山腰 美帆】

みどりの食料システム戦略で示された目標達成に向け、化学農薬や化学肥料に代わる資材の検討が必要です。そこで、夏秋トマトを対象に、有機JAS の認証を取得した肥料(以下、有機肥料)を用いた追肥体系での、施肥方法(液肥、固形肥料)の違いが収量・果実品質に与える影響を比較検討しました。

【成果の内容・特徴】

- 1 同量の窒素量を追肥した結果、収量・果実品質は液肥を利用した区で良好となりました(表2)。
- 2 固形肥料は土壌表面(被覆マルチ下)に施用したため肥効が低下したのに対し、灌水と同時に施用する液肥で肥効が安定したと考えられました。

表2 各区の収量性、果実品質割合

区	粗収量 (t/10a)	可販収量 (t/10a)	平均果重 (g)	A品 (%)
液肥区	15.0	12.0	133	47.5
固形肥料区	14.1	10.7	124	40.1

【成果の活用・留意点】

- 1 両区とも基肥(固形肥料による)は窒素量2.4kg/10a、追肥は窒素量20kg/10aとしました。
- 2 液肥は窒素のみを含む資材(N:P:K=6:0:0)を使用しました。

令和7年度 試験研究成果検討会を開催

本所では2月13日(金)に飛騨総合庁舎で、中津川支所では2月10日(火)に恵那総合庁舎で、それぞれ87名、66名の参加を頂き、試験研究の成果を紹介・検討しました。皆様から多くのご意見ご助言・ご要望をいただき、有意義な検討を行うことができました。今後の研究活動に活かして行きます。



○本所成果検討会



○中津川支所成果検討会

岐阜県
中山間農業研究所

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重二丁目6番56号
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒508-0203 岐阜県中津川市福岡1821-175
TEL: 0573-72-2711 FAX: 0573-72-3910

研究所ホームページ <https://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

